

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 センター研修【第2回】

6月16日(金)13:00~15:00 県総合社会教育センター 受講者25名

1 趣旨

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上とネットワーク形成を図ることを目的に、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得のための研修を行う。

2 内容

【講義】「青少年体験活動の充実」

講師 國學院大學人間開発学部子ども支援学科
准教授 青木 康太郎（あおき こうたろう）氏



3 講義要旨

- 子どもの頃の様々な体験活動は生きる力をはぐくむ糧となり、その後の人生を豊かにする基盤になります。
- 子どもと親に「自然に対する関心・興味」を促すことで、「子どもの自然体験離れ」を防ぐことができるのです。
- 家庭・地域・学校が協働し、発達段階に応じた多様な体験を意図的・計画的に創出することで、子どもの成長を支える環境づくりを進めていくことが大切なのです。
- 子どもの成長を支える環境づくりを進めるには、自然体験活動に関心を示さない子どもたちに活動の魅力を伝え、幼少期の子をもつ親に「子どもを自然体験活動に参加をさせたい！」と思ってもらえるよう、自然体験活動の啓発活動にも力を入れていく必要があります。

4 アンケート結果から

受講結果に満足	82%	どちらかと言えば満足	18%
どちらかと言えば不満	0%	不満	0%

(受講者の感想)

- ・人から感謝されたこと、人の役に立っていると感じたことが自己肯定感を高め、そのために体験が有効であることがよく分かりました。
- ・小学生の頃の自然体験と高校生になった時の自尊感情の関係について、どの家庭環境の経済状況においても自尊感情が高くなる傾向があるという結果が興味深かったです。
- ・質の高い体験とは、「何か」を教えるのではなく「わかる・気づく」ができることが重要で、体験の提供だけではなく「ほめる・励ます・時に叱る」ことも自己肯定感を高めることにもなり、質の高さに繋がるということを学びました。
- ・子どもたちに対する自然体験学習に注力して事業を開催してきたので、今回の研修は大変参考になりました。今後の事業に活用したいと思います。

本研修第2回目として、青木氏による講義「青少年体験活動の充実」から、幼少期に体験活動をよくしていた子どもほど自己肯定感や意欲の高い大人になるということを、様々な調査の提示や事例紹介より実感することができました。今後の事業の方向性を見い出すことができた研修となりました。